

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号	115
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。
--------	--

【 学校全体 】

評価する領域・分野	教育全般
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の重要な内容に関しては肯定的な回答が多く、保護者の理解や協力が得られている。 保護者や地域への情報発信に課題があるが、少しずつ改善されている。 いじめ対策への取組等、個別の事例については家庭と連携できたが、学校全体で取り組んでいる内容については保護者への周知方法の工夫が必要である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリア形成に基づいた指導の実施 基礎的・基本的な知識や技能の習得と生活に生かせる実践的な力の育成 児童生徒が自身の身を守ることができる健康及び安全教育の充実 家庭や地域等との連携による、いつでも、どこでも、だれとでも実践できる力の育成と定着
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 主事会、企画委員会、職員会等で情報共有と共通理解を図る。 学校運営協議会等を通して外部関係者との連携を密にし、外部評価を積極的に求め教育活動に反映する。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の推進 社会の変化やニーズをふまえた教育活動の充実 感染症対策の継続、防災マニュアルに基づいた訓練等の実施 保護者や地域等への積極的な情報提供及び丁寧なコミュニケーション
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート及び生徒アンケート 児童生徒の様子
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育への理解を深める職員研修の実施、各分掌からの情報発信 新しい作業学習の展開、授業における ICT の活用 感染症対策に留意した教育活動の計画、命を守る訓練等の実施 外部団体や地域の方との連携による学校行事や校外学習の実施
評価の視点	評価
①児童生徒の実態把握や学習課題の検討に個別の指導計画等を活用できたか。	A (B) C D
②社会の変化やニーズをふまえた学習を実施できたか。	A (B) C D
③家庭や地域と連携した学校づくりを推進できたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策の実施により、教育活動を計画通りに実施することができた。 ○宿泊学習や修学旅行、交流学习等を工夫して実施し、様々な体験や地域の人等と触れ合う機会を設定することができた。 ○保護者や外部団体等と連携して学校祭を実施し、地域の方が多数参加して下さった。当校のことや児童生徒の様子を知っていただくよい機会となった。 ○高等部の喫茶サービス班でカフェを運営し、コミュニケーション能力や自信を付け、現場実習での評価が向上した。 	A (B) C D

○ニーズに合わせた ICT 研修会の開催により、職員のスキルが向上し、授業の中で広く活用されるようになった。	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を推進するための体制を整え、研修等により職員の共通理解を図れるようにする。 ・地域の方に学校を知ってもらうため、回覧板やチラシ等を利用し、効果的な情報発信を行う。 ・保護者に対し、学校での取組や児童生徒の様子について、今まで以上に積極的に情報提供を行い、共有推進を図る。

【 小学部 】

評価する領域・分野	教育全般
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標や指導方針の内容への十分な理解と共感を得ている。 ・家庭と積極的に連携がとれている。(連絡、懇談、個別の支援計画) ・教員の児童生徒への愛情や熱意が家庭に伝わっている。 ・社会生活の基礎的・基本的な力を身に付ける指導ができています。 ・授業や行事等を参観する機会を、感染症対策をとったうえで行っていく。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてる分かりやすい授業を展開し、基礎的な力を伸ばし、生活で活用できる実践力を育成する。 ・一人一人の「伝える力」の課題を明確にし、保護者と連携しながら様々な場面で実践する。 ・体の動かし方を体得し、運動量を増やしながら、児童一人一人の将来につながる健康の維持増進を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・部会 主任会 学年会 教科会 ケース会議 Teams の活用 ・リズムランニング 散歩 「からだ」の時間 昼休みの活用
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・主任会、学年会を中心とした協力、相談の体制づくり ・保護者や関係機関との連携と、個別の指導計画等の適切な活用 ・学習計画、評価、ICT の活用 (授業での活用・情報共有)
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート及び職員アンケート ・児童の様子 ・学年会 ・部会
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や放課後、学年会にて、授業内容の確認や児童の様子の情報共有を行った。 ・動作や発声、カードなどの思いの伝え方を児童と一緒に繰り返し練習した。 ・リズムランニング、ダンス、散歩、外遊びなどを積極的に行った。
評価の視点	評価
①情報交換を密にししながら授業実践をすることができたか。	(A) B C D
②一人一人の「伝える力」を育成する取り組みを行うことができたか。	A (B) C D
③丈夫な体作り、健康の維持・増進の視点をもって運動量の確保ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○職員間での共通理解をもとに、よりよい指導になるように取り組むことができた。 ○思いを伝えようとする児童の姿に耳を傾け、思いを受け止めることができた。 ○体を動かす時間を必ずとり、運動量を確保することができた。 ▲「伝える力」に関する実態把握と必要な指導や支援の検討が不十分だった。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内で話す時間を確保し、児童の様子や指導方法を共有していく。 ・部会で情報の共有や指導方法を検討する時間を設ける。 ・单元の中で体を動かす時間を位置づけ、運動量を増やしていく。

【 中学部 】

評価する領域・分野	教育全般
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標や指導方針の内容への十分な理解と共感を得ている。 ・家庭と積極的に連携がとれている。(連絡、懇談、個別の支援計画) ・教員の児童生徒への愛情や熱意が家庭に伝わっている。 ・社会生活の基礎的・基本的な力を身に付ける指導ができています。 ・授業や行事等を参観する機会を、感染症対策をとったうえで行っていく。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な知識・技能・および態度を、体験を通して育成する。 ・学校や地域の人とともに活動する中で、周りの人と関わる力を育てる。 ・自分の心や体を知り、健康で安全な生活ができる力を育てる。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任、作業班を中心としたチーム体制 ・各分掌との連携 ・部会、学年会、教科会、個別懇談
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握、学習課題の明確化(教育課程、年間指導計画見直し) ・学年会、主任会を中心とした協力・相談体制づくり ・保護者・関係機関との連携と、個別の指導計画等の適切な活用。 ・学習計画、評価、ICTの活用(授業での活用・情報共有)
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価、キャリアパスポート ・連絡帳、個別懇談、学校アンケートでの保護者からの意見や感想
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、類型での教材研究や授業実践の積み上げ ・保護者懇談、教員間での個別の指導計画の活用 ・タブレット端末(MetaMoJi、プログラミング学習)を活用した授業実践
評価の視点	評価
①体験を通して、社会生活に必要な知識・技能・および態度を育成することができたか。	A (B) C D
②周りの人と関わる力を高める取り組みを行うことができたか。	A (B) C D
③自分の心や体を知り、健康で安全な生活ができる力を育てるための生徒指導や授業実践ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○周りの人との関わりを高める取り組みを増やし、主体的に活動できる場を確保することができた。</p> <p>○安心・安全な学習環境を整え、生徒の実態を共有しながらより良い授業実践ができた。</p> <p>▲作業学習等の体験的な活動では、高等部や卒業後を見据え、一人一人に合わせた指導の検討が不十分だった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生活全般において、周りの人との関わりを高める取り組みを増やす。 ・学年・部会だけではなく、作業班等で指導方法を共有する時間を設ける。 ・高等部や卒業後を見据えた指導内容や方法を検討、共有していく。

【 高等部 】

評価する領域・分野	教育全般
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標や指導方針の内容への十分な理解と共感を得ている。 ・家庭と積極的に連携がとれている。(連絡、懇談、個別の支援計画) ・教員の児童生徒への愛情や熱意が家庭に伝わっている。 ・社会生活の基礎的・基本的な力を身に付ける指導ができています。 ・授業や行事等を参観する機会を、感染症対策をとったうえで行っていく。
今年度の具体的かつ	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後に社会人として地域と関わり、社会に貢献できるよう、社会生活・職業生

明確な重点目標	活に必要な力を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の役割に対して、責任をもってやり遂げる力と進んで周囲と協働する力を育成する。 自己を理解する力や管理する力を高め、健康な身体と周囲を思いやる豊かな心を育成する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 学年主任、類型主任を中心とした高等部全体の連携 校内分掌との連携 家庭、市町、医療等関係機関との連携
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会を通じた、個の特性と状況の把握 保護者、関係機関からの情報収集と、個別の指導計画等の適切な活用 授業や指導方法についての積極的な意見交換と研修
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子（出席状況、学習評価） 生徒の進路決定状況 学校アンケートおよび職員アンケート、保護者からの意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 連携して生徒の指導にあたることができるよう、職員の意識づけと職員間の情報交換の場の増加 生徒の実態や状況に合わせた作業学習の対応と進路指導
評価の視点	評価
①生徒の情報を共有し、連携して指導に当たることができたか。	Ⓐ B C D
②生徒が状況にあった進路目標を設定し、実現することができたか。	Ⓐ B C D
③積極的に教材研究や授業改善に取り組むことができたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○日頃からの職員間の報告・連絡・相談を大切にし、生徒についての情報交換を積極的に行い、連携して対応できた。 ○新しい作業学習への対応、特に生徒の実態に合わせた対応ができた。1年目の振り返りをしっかり行い、来年度以降に活かしていくことが必要である。 ○生徒の状況に合わせた丁寧な進路指導を行うことができた。 	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活に向けた早期からの段階的な進路指導 作業学習をより効果的に進めることができるよう取組体制の改善 指導力を高めるための、教員の更なる意識向上と積極的な自己研鑽

【教務部】

評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> 教務（教育計画、教育課程、年間行事計画、学校説明会等） 庶務（指導要録、通知表、校内規定集整理等） 学習指導（個別の指導計画、指導と評価の年間計画、教科会等） 教育環境（図書管理、教務部用HP管理、施錠当番、理科教育施設台帳等）
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標に共感を得て、児童生徒の可能性を伸ばす工夫がされている。 授業内容は児童生徒の実態に即しており、体験的な活動や教材教具の工夫により児童生徒は積極的に取り組んでいる。 授業や学校行事等の参観等、教育活動について公開する機会を増やす。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会の変化やニーズに適應できる実践力を育む教育の推進。 行事の早期計画と精選、業務分担の明確化、簡素化に努める。 学習活動の充実のための環境整備及び個人情報・保存文書の的確な管理に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各行事における他分掌との連携 教務部会、教科会

目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進、ふるさと教育や地域資源を活用した授業づくりに取り組む。 ・教科会と部の日、教材研究の日を活用し、学習指導要領に基づいた学習実践の評価改善を図る。 ・行事等の早期計画と精選を行い、明確な業務分担のもと他分掌と連携を図る。 ・記録台帳等を使用し、個人情報・保存文書の的確な取り扱いと管理を行う。
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各業務における反省と評価 ・キャリアパスポートの活用状況、ふるさと教育の実施記録 ・個人情報の管理状況の確認
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの活用、地域交流や地域学習等のふるさと教育の実施 ・指導と評価の年間計画に、新学習指導要領における3観点評価を追加 ・分掌間の連携による各行事等の計画・実施 ・会議の精選や協議事項の簡潔な提案、チームスでの連絡を活用 ・個別ファイル、要録等の個人情報の管理
評価の視点	評価
①新学習指導要領に基づいた教育実践ができたか。	A (B) C D
②他分掌と連携し、行事等の実施計画を早期に立案し、実施できたか。	A (B) C D
③個人情報の的確な管理ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○学校全体で年間を通したキャリアパスポートの活用ができた。次年度も他分掌と連携して計画的にキャリア教育を推進する。 ○感染症の状況に対応しながら計画的に行事等の計画、実施ができた。 ○会議の精選やチームスの活用により、会議の回数削減と時間の短縮、ペーパーレス化を行うことができた。 ○個人情報・保存文書の的確な管理ができた。 	A (B) C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、会議、研修の精選について継続した検討 ・他分掌との連携によるキャリア教育の推進 ・校務のシステム化（校務支援システムの活用）

【 支援センター部 】

評価する領域・分野	センター的機能、地域連携、校内支援
現状及びアンケート の結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域の特別支援教育体制の推進に向けて、関係機関と連携し、地域に特別支援教育やセンター的機能について周知し、活用を促している。 ・個別の教育支援計画の作成のために、必要な情報やの提供、地域資源の周知等を行っている。今後はその活用について周知が必要。
今年度の具体的かつ 明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の人的資源を活用した、より継続的、実践的な支援を提供する。 ・支援経過を確認しながら、提供した支援の有効性について評価し、改善する。 ・児童生徒や保護者、担任の困りごとに寄り添い、支援が必要なケースを積極的に把握し、早期に対応する。 ・関係機関との連携を密にして、より迅速に適切な支援につなぐ。
重点目標を達成する ための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能（相談支援、訪問支援、研修支援、情報提供） ・地域連携（地域支援会議、福祉事業所対応、個別の教育支援計画、交流及び共同学習） ・校内支援（「気にかけてほしい子」の情報共有、サポート会議、外部連携）
目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的なサポート会議の開催、外部連携の実施 ・各部、各他分掌と連携（情報共有、支援体制の整備、役割分担の確認等）

達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援：関係機関との連携、園や学校等に支援後の様子を確認 ・校内支援：支援・指導の助言・記録、進捗状況の確認や分掌反省の実施
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・校内におけるサポート会議の積極的な開催 ・地域の就学や支援にかかわる指導・助言、公開講座の実施 ・センター的機能についての情報発信や活用の充実 ・地域支援会議主催の自治体への移行、校内支援の役割分担・経過共有
評価の視点	評価
①校内の児童生徒や保護者、担任の困りごとに寄り添い、適切な支援ができたか。	A (B) C D
②センター的機能を通して、地域の園や学校等に対して適切な支援ができたか。	(A) B C D
③各部、各分掌と連携し、校内支援に取り組むことができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○積極的に校内支援のためのサポート会議を企画した。昨年度と比べおよそ2倍の数の会議を運営することができ、会議後の外部機関との連携にも努めることで、その後の児童生徒の支援に寄与することができた。</p> <p>○積極的に関係機関と連携を図り地域支援を行った。昨年度と比べおよそ4倍の数の関係機関に助言する機会をもつことができた。</p> <p>▲各部、各分掌と連携を図り校内支援を実施することに努めたが、まだ不十分な点がある。特に生徒指導部教育相談係との更なる連携強化が必要である。</p> <p>▲個別の教育支援計画の活用について、職員に対して更なる周知が必要である。その際、個別の指導計画やキャリアパスポートとの関連付けについて教務部や研修部と連携を図りながらすすめる必要がある。</p>	A (B) C D
来年度に向けての 改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、可茂教育事務所や各市町村教育委員会等と連携し、地域の特別支援教育体制の充実を図る。 ・生徒指導部教育相談係と更なる連携をとり、校内支援の充実を図る。 ・教務部や研修部と連携をとり、個別の教育支援計画の活用の充実を図る。

【 生徒指導部 】

評価する領域・分野	「生徒指導」「教育相談」「通学指導」「特別活動」「人権教育」「学校祭」
現状及びアンケート の結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 ・学校の先生と児童生徒あるいは保護者との懇談が十分に実施されていることから、保護者の不安解消、問題事案の未然防止、早期発見・対応に繋がっている。
今年度の具体的かつ 明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な観察、教育相談、アンケートを実施し保護者と連携して対応する。 ・児童生徒の理解と心のケアに努め、丁寧なアセスメントを行い組織的に対応する。 ・インターネットの利用による犯罪被害の防止及び様々な交通場面における危険について理解するために安全教育の推進を図る。
重点目標を達成する ための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止等対策委員会、ケース会議、教育相談については、外部機関とも連携して実施。
目標の達成に必要な 具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート、人権に関わる授業等を実施 ・いじめ防止等対策委員会、ケース会議等の実施 ・不審者対応訓練、捜索時の対応及び交通安全教育の推進 ・外部講師を招いて情報モラル研修、法律、DVに関わる研修の実施 ・児童生徒会、MSリーダーズ活動、部活動の運営、学校祭の総括
達成度の判断・判定 基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の主体的な言動や様子 ・学校評価における、当校の生徒指導上の指導や支援に関する評価

	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止等対策検討会議における、当校のいじめ対応等に関する評価
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> SCを活用し心のケアに努め、いじめ認知事案を迅速に組織で対応 各種マニュアル作成と訓練等の実施 SB運行計画作成と運行業務、交通安全指導と自力通学指導の実施 人権教育と啓発取組の実施及び取組内容を学校祭で保護者や地域の方に周知 感染状況に応じて、児童生徒会、委員会、集会、MSリーダーズ活動等の実施
評価の視点	評価
①生徒指導全般において組織で対応し、適切な指導や支援ができたか。	A (B) C D
②児童生徒が主体的に活動できる環境や活躍の場を確保できたか。	A (B) C D
③児童生徒の人権意識の向上といじめ重大事案に至らない日々の指導ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題事案について、関係職員が情報交換を行い、迅速に対応することができた。 関係職員と連携して、滞りなくスクールバスを運行することができた。 人権教育を推進することで自己理解や、仲間を思いやる心が育成できた。 <p>▲課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人や保護者のニーズを把握し、児童生徒の貧困や外国人児童生徒を社会的支援につなぐ対応 スクールバス利用希望者の増加に伴うスクールバス運行の対応 学校祭の業務内容及び運営方法の改善 児童会・委員会活動の更なる充実 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 多様な背景をもつ児童生徒の支援を、保護者や関係機関と連携して対応する。 教育相談、人権教育の研修についての教職員の基礎知識の獲得を図る。 関係機関等との連携体制を構築し、外部講師を招いて生徒指導や未然防止教育などの児童生徒向けの研修を実施する。

【 研修部 】

評価する領域・分野	研修
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人の更なる専門性の向上が必要 →「学校の先生は、専門的知識が豊かで教師としての資質を身につけている。(保護者)」では、86.5%が「よくあてはまる」「あてはまる」 児童生徒の実態を的確に捉える力を更に身に付けていくことが必要 →「学校の先生は、児童生徒の実態を的確に捉えている。(保護者)」では、81.9%が「よくあてはまる」「あてはまる」
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 業務の中で取り組む重点課題(実践)を蓄積する研究の体制を構築する。 研修の在り方を見直し、一人一人のキャリアステージやニーズに沿った効果的・効率的な研修を計画・立案する。 研究や研修を通して、教員同士が対話できる機会を意図的に設定することで、資質の向上につなげる。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 研究推進委員会 初任者研修推進委員会 分掌会
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 自身の業務における重点課題をテーマとし、実践を積み重ね、年度末には実践集として互いに必要な情報等を共有できる、一人1研究テーマの体制作り 校内研修の参加方法(必須・選択・該当)を整理し、各自が自身のニーズに応じて参加を検討できる仕組み作り

	<ul style="list-style-type: none"> 研究や研修において、グループワークを取り入れ、参加者同士が話し合いを行う機会の設定
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 職員向けアンケートによる職員の達成度等調査
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 各自の業務の中で重点課題を選ぶ一人1研究テーマ設定による研究体制を構築することができた。 校内研修の参加について全員が一律に参加するのではなく、選ぶことができる仕組みを作ることができた。 経年研修について、役割分担を明確にして取り組むことができた。各研修を滞りなく進めることができた。
評価の視点	評価
①一人一人のキャリアステージやニーズに応じた一人1研究テーマ体制の構築	Ⓐ B C D
②各自の課題解決及びキャリアステージに基づく各種研修の充実	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<p>○一人1研究テーマ設定による研究は、各自のキャリアステージやニーズに応えることができたとともに、職員の負担軽減につながった。</p> <p>○校内研修において、参加方法を選択することができるようにしたことで、職員の負担軽減と主体的な参加につながった。</p> <p>▲一人一人のキャリアステージやニーズに応じた研修内容の更なる充実を図る。</p>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 一人1研究テーマ設定において、似た課題を抱える教員がグループで学びを深めることができる仕組み作り キャリアステージやニーズに応じた研修を受講するための情報提供の工夫

【 ICT教育推進部 】

評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> ICT 活用研修、情報モラル・セキュリティ推進 情報機器・ネットワーク管理
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ICT 活用が一部の学年グループの活用になったり、使い方が固定化されたりするなど、なかなか広まらない現状がある。 機器の老朽化や、メンテナンスに係る時間が増えると共に、セキュリティや著作権の問題も増えてきた。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が効果的に ICT 機器を活用することで、個々の能力を最大限に発揮できる教育環境づくりを目指す。 安全に ICT 機器活用することで、より良い生活が送れるように、情報モラル等のルールやマナーについて常日頃から啓発する。 ICT 機器を利用して、家庭との円滑な連携や校務のスリム化を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ICT 教育推進部会 ICT に関する校内連絡会 特教研の課題研究を軸にしたプログラミングロボットの研究会
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回程度の ICT 活用自主研修会 ICT 活用、情報セキュリティ啓発のための掲示板設置 児童生徒、教員が安心して活用するための機器整備
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ICT 教育推進部内での振り返り ICT を活用した授業実践の広がり具合
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 自主研修会や掲示板設置を通して、新しい ICT 機器の活用を提案・啓発することができた。 校内の ICT 機器の故障・断線、紛失等のトラブルに対応し、ネットワーク環境改善に取り組むことができた。

評価の視点	評価
①校務の ICT 推進（機器のメンテナンス、機器割り振りや使用計画、セキュリティ対策、タブレット端末やノートパソコンの貸出計画など）	A B C D
②ICT 活用啓発（ICT 自主研修会の開催、ICT 掲示板設置、特教研課題研究など）	A B C D
③行事での機器設営と管理（式典や集会でのオンライン配信や視覚支援パネル、機器設置など）	A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○研修部と連携した自主研修会の設定や掲示板の設置ができた。参加者が固定されつつある傾向にあるが、興味をもって参加してもらうことで、授業づくりにつなげることができた。情報セキュリティの啓発として、教材の作成を行った。</p> <p>○機器の破損・紛失、デジタル著作権に関する問題があったが、その都度対応して大きな事故を防ぐことができた。</p> <p>○職員会のペーパーレス化が実現できた。</p>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の紛失・破損、セキュリティ事故などのトラブルが0になることを目指して、今後も注意喚起や整備を続けていく。 ・ICT 掲示板が立ち上がり、自主研修会が定着してきたので、さらに大勢の職員が活用できるように、掲示板や研修会を工夫していく。 ・学年・グループの ICT 係を巻き込んだ効率の良い機器メンテナンスができるような体制づくりをする。

【健康安全部】

評価する領域・分野	保健指導、健康教育、給食指導、体育指導、特別活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の継続と換気対策に関わる効果的な環境整備に合わせて、授業や学校行事における基本的な感染症対策について、保護者の理解を得ている。 ・医療機関と常に連携を図り、児童生徒の健康に気を配り、迅速な対応に概ね保護者の理解を得ている。 ・児童生徒の安全管理に気を配り、緊急時の対応について、保護者の協力及び理解を概ね得ている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自らの健康状態を把握し、健康で安全かつ豊かな生活に向けた力と態度を育成する。 ・自身の心と体への理解を深め、健全な生活ができる態度を育成する。 ・食、運動への関心を深め、健康で規則正しい生活をする態度を身に付ける。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭、担当部主事を中心とした対応と保健主事、保健室、各担当者が協力し、全職員への周知、協力体制をつくり実施の対応、調整にあたる。 ・各種委員会、担当者会等で検討し対応にあたる。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健特別対策事業を活用した効果的な感染症対策に関わる環境整備及び教職員への意識注意喚起をすぐメール等で必要な情報の提供を行った。 ・健康管理に関わる関係職員が適宜集まり、課題の解決及び対応について確認することで適切な組織運営に繋げた。 ・委員会活動、学級との連携し、健康状態の掌握を継続して行った。また、保健指導として外部講師を活用した授業を実施した。 ・水泳指導の再開とプール施設の管理を進めた。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自らの健康状態を把握し、健康で安全かつ豊かな生活に向けた力と態度を育成する中で、大きな傷病事故なく、安心して安全な学校生活を健康に過ごすことができたか。 ・健康教育、保健指導、食育指導等を通し、児童生徒が自身の心と体への理解を深め、規則正しい生活につながる取り組みの充実が図れたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な感染症対策と換気対策を主とした環境整備に取り組んだ。 ・健康診断及び日々の健康状態の把握を適切に行い、児童生徒個々の心身の状

	<p>態の把握し、職員間及び保護者との連携を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室、保護者、担任が綿密に連携し、安全な医療的ケアを実施した。 ・栄養教諭、学級が連携した「食に関する授業」の取り組みとともに、アレルギー担当者が中心となり、食の安全に関わる取り組みを実践した。
評価の視点	評価
①感染症対策に努め、児童生徒の心身の健康状態を適切に把握した上での保健指導等の充実が図れたか。	(A) B C D
②保護者及び医療機関、教職員との連携を密にした医療的ケア及び保健指導の適切な実施がなされたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○基本的な感染症対策と換気対策を主とした環境整備を進めたことで、学校教育を止めることなく、円滑に進めることができた。</p> <p>○関係職員で密に連携を図ることで、大きなアクシデントなく、安心安全な学校生活及び、医療的ケアを実施することができた。</p> <p>▲保健指導（性に関する指導）、食育に関わる指導の更なる充実を図る。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に関わる基本的対策への意識の継続に努めるとともに、健康安全に関わる適切な対応及び運営方針の周知徹底にあたる。 ・性、食育、保健体育（プール含む）にかかわる指導の充実にあわせ、児童生徒の実態に応じた適切な指導の充実を図るとともに組織的な計画及び実施状況の記録をまとめる。

【 防災環境部 】

評価する領域・分野	<ul style="list-style-type: none"> ・防災（防災教育、防災対策、緊急時連絡等） ・環境整備（施設管理、校内美化、駐車場管理等） ・校内掲示（教室掲示等）
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・非常変災時の対応等、保護者への周知を丁寧に行う。 ・地域、保護者との連携を強化し、防災体制の充実を図る。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・『命を守る訓練』をはじめとした防災教育に関する取り組みの充実を図る。 ・危機管理マニュアルの検証と実効性のある体制構築を進める。 ・地域住民及び保護者等との連携を通して、校内における防災体制の充実と地域に貢献できる防災体制の構築を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・防災環境部（分掌会） ・防災対策組織
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各種訓練の計画的な実施 ・訓練結果等をもとにした危機管理マニュアルの検証 ・美濃加茂市防災安全課やPTA等との連携した取り組みに向けた計画
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・『命を守る訓練』『非常変災時対応訓練』等を児童生徒の実態に配慮し、様々な状況に対応できるよう考え、実施することができたか。 ・訓練の反省等をもとに『危機管理マニュアル』の検証を行い、必要に応じて修正等を行うことができたか。 ・美濃加茂市防災安全課やPTA等との連携に向けた計画を行い、実施することができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・『命を守る訓練』『非常変災時対応訓練』の計画的な実施 ・訓練における『危機管理マニュアル』の実践、検証 ・美濃加茂市防災安全課との福祉避難所開設に関わる内容の確認
評価の視点	評価
①『命を守る訓練』『非常変災時対応訓練』等を児童生徒の実態に配慮し、様々な状況に対応できるよう考え、実施することができたか。	(A) B C D

②訓練の反省等をもとに『危機管理マニュアル』の検証を行い、必要に応じて修正等を行うことができたか。	A (B) C D
③美濃加茂市防災安全課やPTA等との連携に向けた計画を行い、実施することができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○『命を守る訓練』の計画的な実施及び内容の充実を図ることができた。 ○危機管理マニュアルの修正、訓練後の検証ができた。 ○福祉避難所開設に関わる打ち合わせを美濃加茂市と行うことができた。 ▲地域の住民やPTAと連携した取り組みを具現化できなかった。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・訓練等を通して、危機管理マニュアルの検証を行い、実効性を高める。 ・地域の住民やPTAと協力、連携した防災の取組を計画し、実施する。 ・各業務のマニュアル化を行い、業務内容を明確にし、継続的に取り組むことができるようにする。

【進路指導部】

評価する領域・分野	・進路学習（産業現場における実習、作業学習） ・進路指導（進路指導計画、事業所合同説明会、関係諸機関連携、追指導） ・進路研修（進路研修、進路ガイダンス）
現状及びアンケートの結果分析等	・学校の教育目標に共感を得て、児童生徒一人一人の可能性を伸ばす工夫がされている。 ・授業内容は児童生徒の実態に即しており、体験的な活動や教材教具の工夫により児童生徒は積極的に取り組んでいる。 ・授業や学校行事等の参観の機会を設け、積極的に公開する。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・社会のニーズや変化に応じた職業教育や就労支援体制の充実を図り、発達段階に応じた生活能力と職業能力を育成する。 ・就労及び進学に関する情報発信と保護者への啓発、外部機関との連携を強化し、早期からの一貫した進路指導を展開する。 ・進路に関する職員研修を推進し、児童生徒の希望や社会のニーズに合った進路指導に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	・各行事における他分掌との連携 ・教科会及び作業チーフ会
目標の達成に必要な具体的取組	・産業現場での働く体験及び卒業後の進路先を見据えた現場実習の実施 ・B型就労アセスメントや就労移行支援での関係諸機関との連携 ・保護者への進路説明会、個別進路懇談の実施 ・障がい福祉サービス事業所説明会の実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・児童生徒の夢や希望に沿った進路決定、進路実現 ・各事業（進路懇談会、事業所説明会等）のアンケートを基にした意見と評価 ・各業務における反省と評価
取組状況・実践内容等	・従来の作業学習の取組み見直し。 ・進路選択、進路実現に向けた定期的な進路情報の発信（進路だより）。実習での評価を丁寧にフィードバック（進路懇談）。 ・福祉サービス事業所説明会を実施。 ・会議での協議事項の簡潔な提案とチームスでの連絡を活用、会議時間の削減。
評価の視点	評価
①児童生徒の夢や希望の実現に向けた能力や態度を育てることができたか。	A (B) C D
②児童生徒や保護者目線に立った進路情報の発信をすることができたか。	(A) B C D
③学校全体の進路指導に関する知識や指導力を向上させることができた。	A (B) C D

成果・課題	総合評価
○各部で実態に応じた進路学習（作業学習の新運用、働く体験、現場実習等）を行うことができた。 ○他分掌と連携し、当校の進路指導や事業所情報を保護者へ発信できた。 ▲職員に対して進路に関する情報発信及び研修会が不十分であった。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・児童生徒の主体的な進路選択、進路決定及び卒業後の社会生活を支える進路指導・就労支援体制の充実を図る。 ・関係機関との連携強化、継続的な進路情報の発信、進路相談室の設備整理。

【 渉外部 】

評価する領域・分野	「PTA」「関係諸機関連携」「福利厚生」「同窓会」
現状及びアンケートの結果分析等	・学校評価アンケートの結果、「学校は、保護者と一体になってPTA活動を進めている」の項目で、86%の理解を得ることができた。新型コロナウイルス感染症が5類になったため、PTA活動が昨年度より活発になり、学校祭では4年ぶりにPTAブースを立ち上げて活動したが、役員等が多忙だと映る傾向が見られたり、今年度は“PTA”の存在自体にも一部の保護者より意見が聞こえている。PTA活動に対して理解を得られるよう真摯に対応したい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	①会員による主体活動の援助に努める。 ②コロナ後の活動に関する情報収集と実践分析を徹底する。 ③状況の変化や保護者のニーズに合わせた校内(外)研修等の計画・実施に努める。 ④学校行事、PTA行事に関わる地域への協力発信を行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	①各委員会活動に担当職員を配属 ②引継ぎ書作成と次年度への活用 ③執行役員会での計画、実施、反省 ④PTA本部役員と学校との連携のもと、地域に向けての発信
目標の達成に必要な具体的取組	①委員会活動の打ち合わせ(事前事後)、活動場所(消毒を含む)の確保、プリント作成の補助 ②業務にあたった内容を記録に残す。昨年度の書類を参考にした計画 ③主催となるメンバーからの提案、執行役員会で協議、活動計画、実践 ④学校への協力体制がある外部団体への連絡
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・各会議（PTA執行役員会、分掌会）での反省、検討 ・PTA行事に参加した保護者からの感想内容の集計
取組状況・実践内容等	①渉外部(新メンバー)の担当内容を、早目に確認した。 各委員会担当者から委員長へ、手紙や電話等で積極的に連絡をとり、活動内容を相談した。 ②過去の引継ぎ資料を基に、委員長と相談をしながら提案や計画を立てた。 ③保護者の要望に応じた内容の活動(交流会・花総会・障害者年金)の計画や実践を行った。 ④お菓子の無償提供として、新たに「若尾製菓」と交渉することができた。
評価の視点	評価
①PTAの各委員長を支え、保護者が主体的に動ける援助ができたか。	A (B) C D
②昨年度の引継ぎ書類を活かしたか。新たに取組んだ内容を引継ぎ内容として記録に残せたか。	(A) B C D A (B) C D
③保護者のニーズをもとに、コロナ禍を考慮した計画、実践ができたか。	(A) B C D
④外部の関係諸機関へ、校内状況の伝達や協力依頼の配信ができたか。	
成果・課題	総合評価

<p>○PTA活動の実践後には、アンケートの実施や振り返りを行い、次年度の方向性を見いだすことができた。</p> <p>○情報提供や交流の場として「進路・年金の話」「地域・障害種ごとの交流会」を設定することができ、保護者同士が多く情報を得る環境を提供することができた。</p> <p>○他の分掌とも連携をとりながら、PTA行事を盛り上げることができた。 (教務:授業参観 生徒指導:学校祭 ICT 教育推進:学校HP 防災環境:備蓄購入 進路指導:交流会)</p> <p>▲誰が見ても担当できるような、より詳細な「引継ぎ書」の作成に努める。</p> <p>▲広報担当者の負担軽減に努める。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事(奉仕活動)、同窓会行事(20歳を祝う会)と授業参観の同日開催計画 ・HPでの活動報告の掲載充実(同窓会を含める) ・PTA新聞の簡素化 ・外国籍の家庭とPTA行事の在り方

学校関係者評価 (令和6年2月21日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業からサービス業まで作業が展開され、時代の変化に対応した実践の場が設定されている。生徒が生き生きとしている。 ・喫茶に集客力がある。学校祭でもたくさんの方が来校していたが、地域の方と接することは、緊張感があり、教育効果が高い。スキルを磨くことだけでなく、この作業で何を目的にしているのか、本物から学ぶ価値を共有することが大切である。 ・小学部で大切にしている「体を動かすこと」は、今後も重点的に取り組んでほしい。 ・災害時、避難所があっても、児童生徒は新しい場所には慣れにくいと思われる。定期的に避難訓練等で経験していく必要がある。 ・外部講師を招いた学習について、保護者にもどのような学習をしたかの情報提供や一緒に学ぶ場を設定してほしい。学んだことを家でもできるように、連携していけるとよい。 ・専門性の向上は、とても大切である。計画的に研修等を実施していて、素晴らしい。 ・働き方改革については、職員が育休等の休みをとれることが大事で、その目的や変化についてみんなが理解していくことが必要である。 ・今後人材確保が大事になってくる。職員が疲弊しないようにすることが大切である。
